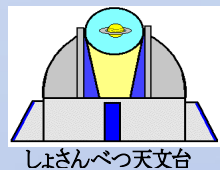




2月の星空

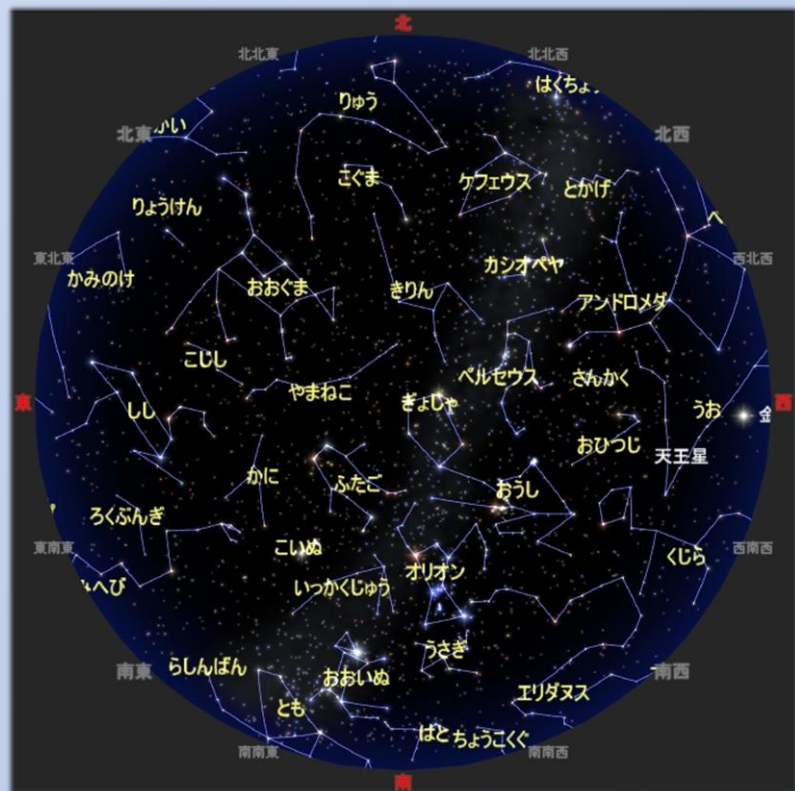


1年のうちで一番寒さが厳しいこの時期、日没後の夜空を舞台に、オリオン座をはじめとしてふたご座、おうし座、おおいぬ座、こいぬ座など、冬の星座たちが共演しています。オリオン座大星雲やプレアデス星団（おうし座）、プレセペ星団（かに座）、二重星団（ペルセウス座）など、見やすい天体もたくさんあります。

また、カシオペア座からおおいぬ座にかけて、天の川が流れます。冬の天の川は銀河系の中心方向とは真逆の外縁方向となり、夏の天の川と比べて密度が低く薄いので、周囲に灯りがあるととても見にくくなってしまふほど目立ちません。その罪滅ぼしではないでしょうけれども、北海道からは見えない2個を含めて9個もの1等星が冬の夜空を賑わせてくれています。さらに、東の空には、暖かくなるのを待ちきれない春の星座たちが、すでに顔を見せてきています。

惑星の様子も見てみましょう。夕方の西の空には金星の輝きが目立ちます。その下方の低いところには水星も見えます。火星と木星と土星は明け方の東の空ですが、総じて見やすいとは言えません。火星はまだまだ小さくて、望遠鏡でも模様は見えないでしょう。木星・土星は明るいですが高度はあまり高くありません。比較の見やすくなるのは下旬以降でしょう。

4日は立春。ですが、寒さはまだまだ続きます。星空を眺めるときは寒さ対策をお忘れなく…。



2月の太陽・月と主な惑星の出没

日	太陽		月		金星		火星		木星		土星	
	出	没	出	没	出	没	出	没	出	没	出	没
1	06:51	16:42	10:23	23:51	08:33	20:12	03:38	12:30	05:22	14:17	06:03	15:13
11	06:39	16:56	19:16	08:02	08:16	20:35	03:31	12:18	04:51	13:48	05:27	14:39
21	06:24	17:10	05:19	14:31	07:57	20:58	03:22	12:08	04:19	13:18	04:52	14:06
28	06:13	17:19	08:26	21:41	07:44	21:13	03:15	12:02	03:56	12:57	04:26	13:42

ご利用案内

冬季休館のお知らせ

天文台は12月から2月末日まで冬季休館中です。休館中のご質問、お問い合わせは教育委員会(自然交流センター)までお願いします。

教育委員会の電話番号 (0164)67-2136 (日中のみ)

電話 0164-67-2539
E-mail: tenmon@arens.or.jp
URL=http://www.vill.shosanbetsu.lg.jp/shtenmon/

日: 天文現象

- 1: 月面Xが見える
- 2: △上弦
- 4: 立春(太陽黄経 315°)
- 9: ○満月
- 10: 水星が東方最大離角(太陽の東 18° 夕方の西)
- 11: 月の距離が最近(36万461km)

- 16: ▼下弦
- 19: 月が火星に接近(明け方の東)
- 20: 月が木星に接近(明け方の東)
- 21: 月が土星に接近(明け方の東)
- 24: ●新月
- 26: 月の距離が最遠(40万6278km)

●水星が東方最大離角

日没後の西の空にひときわ明るく輝く光…。もちろん、UFOではありません。正体は「宵の明星」としてお馴染みの金星です。これから日ごとに高度が上がり、今後しばらくの間、見やすい状態が続きます。

その金星の下方に水星があります。

2月10日に太陽から最も離れる最大離角となり、半月状の形となっているのが望遠鏡で見るとわかるはずですが、明るさはマイナス0.6等級ほどもあるのですが、なにぶん高度が低いので見つけづらいかもしれません。この日の日没30分後くらいの高度は10°(腕をいっぱい伸ばした時の拳の横幅)ほどで、夕方に見える水星としては、今年6月4日の最大離角に次いで良い条件となります。



2月10日 午後5時30分頃の様子。
※惑星の大きさは誇張しています。

●月と3惑星がランデブー

今月は火星・木星・土星がいて座周辺に集まっていて、夜明け前の南東の空に次々と姿を現します。今月下旬、新月前の細い月が、19日には火星、翌20日には木星、さらに21日には土星と、3日連続の通過劇を演じます。観望の目安は日の出1時間前くらい。高度はそれほど高くないので、南東方向が開けた場所かできるだけ高い場所で、双眼鏡を使うと見やすいでしょう。



2月20日 午前5時20分頃の様子。

